

## 片頭痛歴があると術後脳卒中リスクが高くなる

片頭痛歴のある患者は周術期虚血性脳卒中のリスクが増すのか、また再入院率が高くなるのかを検討した。

2007～2014年に米国マサチューセッツ総合病院と2つの関連施設で手術を受けた124,558例（平均年齢52.6歳、女性54.5%）を対象に前向き研究を実施した。片頭痛ありとなしの患者について、術後30日以内の周術期虚血性脳卒中の発症と術後30日以内の再入院を調べた。結果、あらゆる片頭痛の診断歴のある患者は10,179例（8.2%）で、そのうち前兆を伴う片頭痛を有する患者は1,278例（12.6%）、8,901例（87.4%）は前兆を伴わない片頭痛を有する患者であった。術後30日以内の周術期虚血性脳卒中の発症は771例（0.6%）であった。片頭痛歴のある患者は、なしの患者と比べて周術期虚血性脳卒中のリスクが高かった（補正後オッズ比：1.75）。また、同リスクは前兆を伴う片頭痛患者のほうが、前兆のない患者と比べて高かった（同：2.61 対 1.62）。また、片頭痛歴のある患者は、退院後30日以内の再入院率も高かった（補正後オッズ比：1.31）。

したがって、片頭痛歴のある患者は周術期虚血性脳卒中と30日再入院率が高いことが示された。また、周術期虚血性脳卒中リスクアセスメントにおいて片頭痛を考慮に入れるべきであるといえる。

出典： **British Medical Journal. 2017; 356: i6635**